

平成 28 年度文京区障害者地域自立支援協議会第 3 回就労支援専門部会報告

[日時]平成 29 年 1 月 24 日(火) 午後 2 時～午後 4 時

[場所]文京区役所 3 階 AB 会議室

●出欠

出席者 委員 22 名 外部 1 名 欠席者 2 名

●議事

(1) 実習について

◆実習のニーズの整理

- ・実習のニーズの整理、分類をし【資料第 1 号】の表を作成した。
- ・実習には種類があり、目指す方向性によって実習内容を検討する必要がある。企業就労を目指す実習、企業就労を目指してはいないが、ゆたかな人生経験となる実習があり、それぞれ目的に応じて体験する。
- ・事前に実習の目的を考えて実習に臨むこと、また実習後はフィードバックが大事である。

◆実習の方向性について

- ・区役所インターンシップはノルマがあるものではない。振り返りやフォローアップについて検討していくと良いのではないかと。
- ・区役所インターンシップはアセスメントをかねて参加したいが、業務によってはスピードアップが求められる。施設利用者は質問が多くなる時もあり、どの程度区役所職員に対応をお願いできるのか。
- ・H28 年度トライアル実施だが、有償ボランティアで社会参加の促進を図った。

◆業務サポート室の紹介

- ・業務サポート室は文京区のチャレンジ雇用である。メール便の仕分けがメインの業務である。
- ・現時点で実習の場としての活用はできない。今後については検討中。

(2) 支援者の企業実習について

- ・豊田市にあるトヨタグループ本社では施設職員の企業実習を受け入れている。雇用する側と送り出す側の意識の違いを埋め、支援者側の意識向上の効果があると考えられる。また福祉就労の中でも、作業の段取り、ミスをださない仕組みなどのノウハウが役に立つのではないかと。
- ・支援者の企業実習を企画したい。企業・支援者共通の問題意識を持っていると思うので、支援者ももっと勉強が必要だろう。

(3) 中小企業等障害者雇用体験助成事業について

- ・今までの中小企業等障害者雇用体験助成事業が使われていないため、H29 年度に向けて見直しを考えている。
- ・文京区は中小企業の障害者雇用率が低い。背景として、障害者雇用の経験がない、社内でサポートする人がいない、仕事の切り出しができない、求職者が大企業志向である等があげられる。制度の変更ポイントとしては、地域企業の障害者雇用を地域の福祉施設が支える仕組みができないかと考えている。

3タイプの実習

	採用前提 の事前実 習	① 企業就労を 目指す人の実 習	企業就労を目指していない人の実習	
			② 作 業 系	③ ゆたかな人生 系
企業で の 実習	ミスマッ チをなく すための 実習	チャレンジ アセスメント 適職さがし ↓ ↑	見学・少し体験 (成功体験・自信、興 味) →	— ※社会見学など
区役所 での実 習	—	チャレンジ アセスメント 適職さがし ←	社会参加 高い工賃 (達成感・やりがい) ↓ ↑	体験の場 (ゆたかな人生) (社会参加) →

(ポイント)

※それぞれのマトリックスの中でも難易度が、高い…低いがある。

※それぞれのマトリックスの中でも、作業の種類がある。

実習の分類

- ① 企業就労を目指す人の実習
…就労を想定しチャレンジ、適職探し（自分の適性を知る）、支援者のアセスメント
- ② 企業就労を目指していない人の実習（作業系）
…社会参加、高い工賃（達成感・やりがい）
- ③ 企業就労を目指していない人の実習（ゆたかな人生系）
…体験の場（ゆたかな人生体験）

※実習を行う目標を、事前に一緒に考え確認することが体験の内容を深める。

※実習をより貴重な体験にするためには、フィードバックが重要。

※事前の目標に対してのふりかえりが次につながる。